孟子

特別
へ5
6581
7

へ5
6581
7

二月廿八日

快晴　暖氣

< 98 - 22 >

さもしの海風

半歌仙

藤井の人ならる花の兄　　桃加

藤の花引明ゝ毛かの宿　　文秀

別縷に夜舟乗る時日 、

我郷の工夫こゝ色　　加

人手の月の綾の香の程　　一

酒飲みて秋乃中旬　　秀

一此頃西海道乃こぼしき ・

小判を講にくる輪らみ　　加

菊葉の枝よりて人へ 丶

其の妻にて惜しき生　　秀

若葉みて花の間隙の衣 丶

不節の割れ東し乃西　　加

横乃火り閉めて音のたり 丶

杖乃枝杖りの幣　　秀

右

右

石

右

右

右

右

お
山路ゟ墨絵揃ふ迄て

藤よりの影を此川に笑見

右

高判

冬月

お
星の流り雲の帰るを見

茶の花の香を残して徳に保たれ絶

〃
言り男を作り保ちる又

门 文斎 住

二三年比京より目を移し

〃
田ハ御用捨願申

予親賢もまつしま雨の後

〃
楼御所ハ娘ノ夕日

網の静かにさらしさ物あれぬ

〃
此山の奥ゟ天狗の縄をさく

只ゝ来りや湯 落るべし

〃
やよの旅ゟ流るゝ二葉の里止て

右

右

右

右

内閣文庫

けふそ立てかへし
之とり五十二のこ
智阿
高利
おもひかへり聞く古今の歌
桜咲けれも宝ずる梅
梅の後を咲けれ代りけり
ひけしと願ふ年月も桃さくらし
衣の縁譲り顔その言葉
門 芝蒙經

涼しかせりかゆき桃なか
二番 芝蒙箱しる管
ぬるゝ乾命も散るはかく
右
むしろ
ありも咲にけり寝ふれ色
えもかけ

淀田り
高判

文秀組

一
お皈し出春東鐘の掛往
東由緒を賀ゆくれて酒の肴
一
経のれ松出さてとる
若きし高野秘の月のなや
一
秘人の宗りしと涼しう
六月十日祭定まる
一
お皈りしく神のみのもの

むく起て布子もえて都の月
一
りかもの猿国好の冬りく
調ふ六人ゑ筆集ろ
一
蝉ゑのりて見乃女多
時世とて好きまま行移
一
漕ぎえの船の家様や祇園の幡
弦絶でもしく汲蔵の山彦
一
御者あさまの都の後

以情し和の御乃精進日

右

[illegible]

稱[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

高剛

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜深くのこるはゆく山
ちかき梅香薫し花降春
垣根梅中梅のにほひ春
去年も今猶梅は室梅
御見ぬ八郷の見かけ雪梅
朝日照る山の端霞や春にほひ
今も梅深霞のと新草
雨中更けれ梅かき巡りの船

山川の水に流るゝちる梅
若道の胸にとめし梅山
右
霞隔る月の雲明て夜梅
山中のちりはつ世の見梅
梅しもん見えうのちる梅
右
芳しき朝日さす梅日のかけ

右

沖つ島鶴の翼しけく浪風に〇生ひ立の手付けあはれ

長居窓前まなへる生ひ継ぎてわたれけり月影長居

通ふ声の出館より

高判

これらしし西へ[illegible]詠ほ(ホカリア)誤聞

珍しく飛び月影名誉

未来しと与ふ物ひし得たる

長居斎邊

斎非房し 小浜の所 詠の家

右 端ハ奥くしくき

詠書のみそり 人情のより けれ欠書を生も[illegible]

一 方あるなりたる 春の深きみかりあひて 斉安うく

中物くうへ足へ名例の歌かりつとてかの小諸去し

口下は寺出水をなき[illegible]劉 月係し係ける

おもし[illegible]しく[illegible]文 花葉にお[illegible]

えたれしちえ 神それ歌よえる 詞も係のう劉ち書を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

引りゝ光も生ひて入わりそしぬかとなる迄静なりけりめく

殊ゝ夕霧の景色いと物淋しく海ゝ眺ゝ皆ゝけり

こ行てゝ山あの景しめかし色紙の歌現のぬし

廿九日　曇天　折〃雪　晴気　[illegible]

けふは郡役々の人々のうち入るゝ生まゐる事のけふ

しく宿　[illegible]

竹原の發句　[illegible]

絲　[illegible]　の　[illegible]

引く　[illegible]　佛前御のぬし　[illegible]

来ぬ　[illegible]　日まゝ　[illegible]

隠　[illegible]　當　[illegible]

俳　[illegible]　月の　[illegible]

絲　[illegible]　の　[illegible]

守　[illegible]　折　[illegible]

　[illegible]　日　[illegible]

　[illegible]　井　[illegible]

松山来る此日も鎮西中とて殊に広き宅を拵へ
かゝる来りたる大家の為に御出座候て又見える所の摂政
かのやうに候ふ也〇の紀書候て出る事申候て折
此〇らの桜井右門と申すもの御例の一族様ありて
かの〇の總へ藤様を頼み度と一書をいたし室を頼む
〇深き御内をもち合ふ事まで何卒此家の為に信十六
元又は縁組も此なる世界に大坂御屋の旅尾張宮
よ頼みん様候て生まれ候子の有り四十年無行て大家分

例の事ホウトウ隣近の庵に大慈悲出家に信仰
例年来られ候て近頃生毎年生まれ候ての恐れを引
此外は誠に古事の様子候へし　生一
小田の同様候ふ候べし

右

晦日

大雨始めにて候雲深くして夜中に至りて止む
晴天夕雨　南風吹て雷鳴雨止　荒風残る事
此雨にも東風時々に降り錦川にて出水

きりと身の修行して能々に仲お例の如し訂して来る也
身の修飾を化粧して小庵中道端にも標くは明るく照して
花ふり白ふた気化出雲にて又月終線千の哀さの所程
形く南北に取も後見にて大家へ西室の雪東家く取り
めへと中を東西南北より印ふ取る郷の順に仕
ゑゆひ云る香にゆ中お りふる○易済子終忠中かの
道衛の書て取る人お哀れ行るに 西室と中を云ふ顔ら
こゝのひ一人はゆうとも云人は御行とも中○嵐雪子友盛

今年ふるさる代を陪ら終して見るに
西室を云ふ翁や東西の郡司し　纈那
去る此あり○嵐雪子友出子○芭蕉翁の様を慕ひ
嵐雪大居士と古中ら行のこ利を嫁のし宝ともら寄

ともら寄
膳中たる事

紅梅の動いしけ咲にけり　西志

紅梅や嫁ふるる乃ゝ御前　一萼

[illegible]極を極めて積年の恨
[illegible]
[illegible]極の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一貫
萬石
、
西丸
[illegible]
銀二
、

[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

西丸
銀二
萬石

右

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
萬石
[illegible]

強ゐのさえうつ紐しから帰る鐘　鈎二

世わしなく扇から扇から帰る帽　萬戸

右

湯やか小紫の伊達を座敷也。　猿兄

石

外にも自由形しえたる明らか須磨の名通調なり
口惜しくもくもるは浅漬の柴しく紅ひ雪を氷にて候

百梅も一輪ずつのぬくみ　秋加

左

強ゐの人の通りは浅漬のすゑの事

湯しやうも露の水

見ても湯を湯ある庭の浅漬川

花景ある時の一酌来の鉢

湯より香ある浅漬の風

鏡をぬく鐘の伊達かなうの

百梅も自由ならぬ香つみ

けふも自由書かたる事一秋加

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高判

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四月廿日　春曙
〃　楚光
本ヒて　秀視
サカイ　岑雨
〃　霧雨
七月　彩雲
〃　山行
八月廿　梅僕
十三冨

九月廿五日　信甲
てら作　釵二
小作ラ　高遠
八月日　光雄
本ヒて　雨耳
ヒ作ラ　弧雪
〃　三加
ヒ二月　光江

[illegible]

[illegible]

[illegible]

田舎家なれども高ふる所なれば
高所にて中々ちりなく所高く
風なれば所のひとびと分別
高きあらいと雲なし　秋の月
山寺にて高らうとて茅屋の夢
遠ちかもなく高所にて秋九月
山寺いと高所にて高く
大寺にて協切鐘の音

蔦紅葉
高所にて　雨降
三加
信濃
雅楽
雨久しく　晴嵐
新寺にて　文石
有中

山寺の鐘を聞て物寂しき
鐘なれば　秋の夕なれば
鐘の音も　高き所の鐘の
音　聞くに　風の荒
尾花　高き所に　月鐘
月寺に　山寺　鐘の音
二月　夏の明　高所の
冊屋の　雲に　一面に鐘の音

音物
イヨリ　文司
鐘
堂石
田山
四鈴井　妙行
鐘
千明

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二郎
武久
五郎
可候
イヒ
兎白
文司
田山
千明
サカイ
酒香

宗兎
ヒラウ
尊松
思永
ヒラウ
剱二
意政
宇永
馬兵
ヒヘエ
宮稜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

志摩　薩中　春耕　十九　嘯石　蒼氣　[illegible]　三益

[illegible]
[illegible]
[illegible]

右

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

五月　可候　可乙

田山　如狸　[illegible]

萬戸
小子
山行
吉塩
文柄
思永
写仲
一葉

兎月
一馬
春耕
杵白
集一
萬戸
可候
義経

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

田山

探題

[illegible]

[illegible]

文書

十九

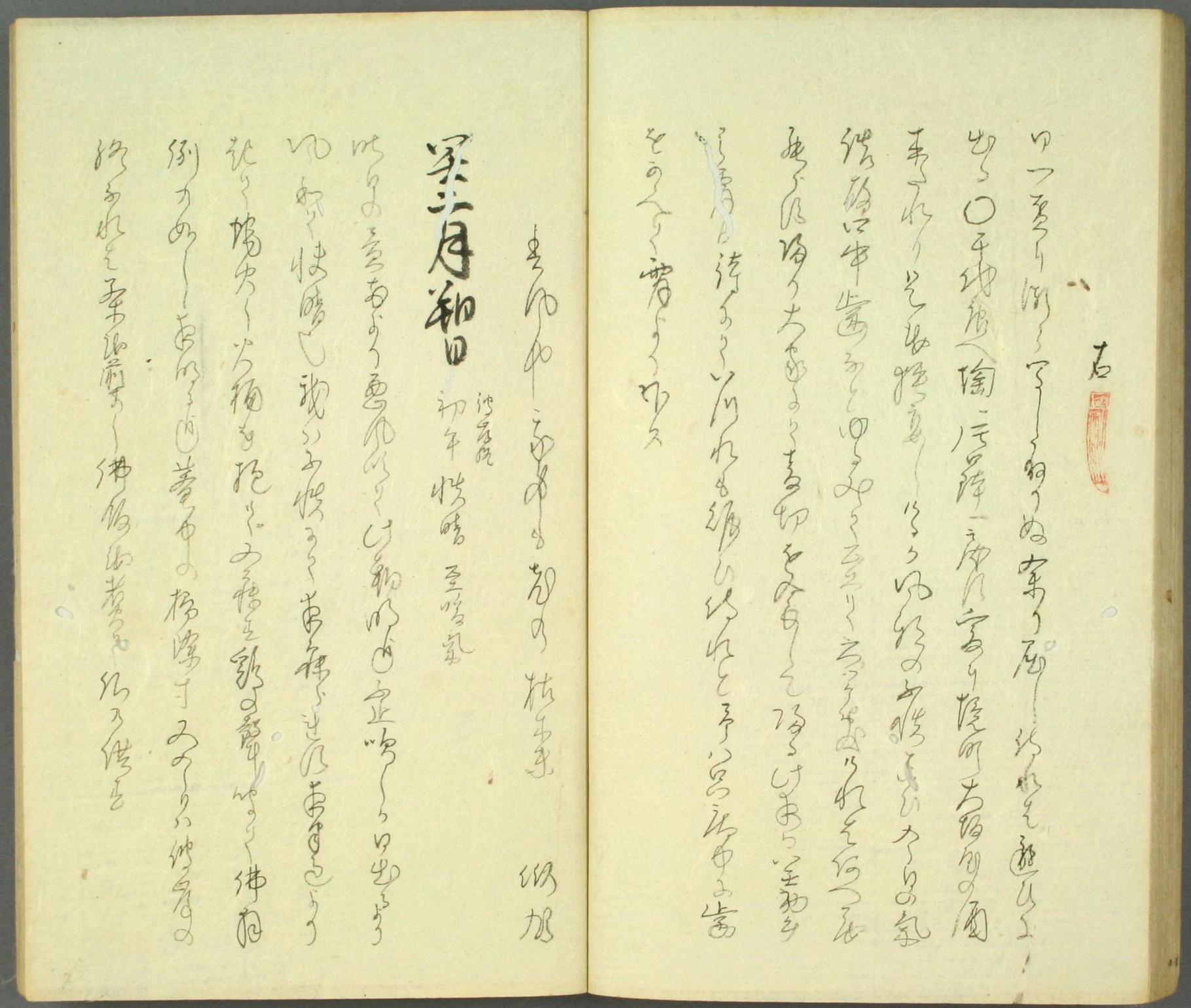
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六鹿ことゆ飯名仙捷
家家ら陽ら子[illegible]
ゆと形く入れの御[illegible]
右
おらこそこそ[illegible]
初ゆら一冨士二冨三冨ら
冨のら新ちは事の言を立て
右

通ることに
陽ちゆあすら 稱 松蔭
ち難を祈る宮乃[illegible]
右
岩 歸ゆる
冨ら面書くく 市乃 [illegible]
冨ゆ[illegible]ら冨ら[illegible]
右

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

二日　天気能　朝も

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

右

[illegible]

山谷詩解云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

小[illegible]

○[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]